

学部編



各種資格に関する教育課程表

1 保育士資格について

〔1〕保育士資格について

「保育士」は児童福祉法に定められた国家資格です。保育所、児童養護施設等で乳幼児から18歳未満までの年齢層の子どもの成長発達を援助し、保護者に保育に関する指導をすることを業務とする専門職に与えられる名称です。これ以外の者が「保育士」を名乗ることは法律で禁止されています（名称独占と言います）。

近年、都市化・少子化が進み、家族形態が変容するなど子どもを取り巻く環境が大きく変化し、健やかな成長に影響が及ぶ事態の生じる恐れも懸念されるようになってきました。子どもが地域において健康で安全に成長することのできる環境を整えるとともに、豊かな人間性と高い専門的な知識と技術をもって、地域社会のさまざまな場面で指導的役割をはたすことのできる保育士が、各方面から強く求められています。

「保育士」資格は、一定の定められた科目を履修し、大学を卒業することにより取得できます。保育士には、保育、乳幼児心理、児童福祉や幼児教育に関する専門的知識と保育に関わる実践的技術を修得するとともに、人間や社会についての幅広い教養を身につけることが要請されます。保育士は専門職であるだけに、それを目指そうとする人は、目的意識を持って積極的に学習を進めることが望まれます。

なお、「保育士」資格を得るためには、2年次に「幼稚園教員・保育士養成コース」の所属を選択する必要があります。

また、「保育士」資格を得るために必要な授業科目及び単位の修得方法は、次項以降の表の通りです。(1)基礎科目群、(2)必修科目群、(3)選択必修科目群からそれぞれの修得方法にしたがって履修してください。(保育士資格必修の科目で1年次から開講されているものもあるので、注意してください。)

〔2〕保育実習について

「保育士」について理解を深めるためには、学内で講義・演習等をとおして学ぶだけではなく、保育所とその他の児童福祉施設で実際に保育や養護の体験をすることが大切です。実習をとおして保育所保育や施設養護の実際、保育士の多様な役割、各施設の社会的機能などについて具体的に理解を得ることができます。そのために2年から4年まで学年ごとに保育実習（A～D）が予定されています。また、それぞれの実習には、実習前のオリエンテーションと実習後の反省会からなる実習指導が設定されています。各実習と実習期間、および実習指導は以下の通りです。

なお、居住型施設での実習は宿泊を伴うのが基本ですので、日頃から健康には十分に留意するよう、心がけてください。

保育実習を始めるにあたっては、事前の十分な準備が欠かせません。したがって、実習に参加するためには、一定の条件を満たしていることが必要です。いずれの実習においても問題意識をもって主体的、積極的に実習に取り組むことが求められます。

《実習の種類及び実習期間、各実習指導》

各保育実習	実習施設及び期間	各保育実習指導
保育実習A（必修2単位）	保育所 2年前期 2週間	保育実習指導A（必修1単位）
保育実習B（必修2単位）	施設 3年前期 10日間	保育実習指導B（必修1単位）
保育実習C（必修2単位）	保育所 2年後期 2週間	保育実習指導C（必修1単位）
保育実習D（選択2単位）	施設 4年前期・後期 10日間	保育実習指導D（選択1単位）

* 実習の時期や期間は実習先の保育所や施設の都合により、多少の変動はありますが、原則として実習時期と期間は上の表のように設定されています。

* 実習指導は開講期日時が不定期であるため日程は事前にお知らせします。保育士資格を取得するためには、必修の実習指導にすべて出席する必要があります。

〔3〕 保育士課程関係の連絡とスケジュール

1年次	5月～7月 6月～7月 11月～翌年4月	保育実習予備オリエンテーション 第1回、2回保育所実習申込み 保育所実習・施設実習オリエンテーション
2年次	6月 7月 10月 11月～翌年4月	第1回保育所実習（保育実習A） 第1回施設実習（必修）希望調査・申込み（保育実習B） 第2回保育所実習（保育実習C） 施設実習オリエンテーション
3年次	4月～7月 7月	第1回施設実習（必修）*（保育実習B） 第2回施設実習（選択）希望調査・申込み
4年次	5月～12月 10月下旬～11月中旬	第2回施設実習（選択）（保育実習D）* 保育士申請登録

* 実習時期は施設の事情等により異なります。

〔4〕 課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、5,000円（1年次）、20,000円（2年次）、20,000円（3年次）、3,000円（4年次）（ただし、「保育実習D」履修者の場合は12,000円）です。徴収方法は学納金の口座からの引落としとなります。引落としに際しては事前にご案内します。

〔5〕「保育士」資格を得るために必要な授業科目及び単位の修得方法

(1) 基礎科目群

系 列	科目区分	本学開設授業科目及び単位並びにその修得方法				備 考	
		授 業 科 目	開講 基準 年次	資格上の修得 区分と単位数			計
教養科目	外国語、 体育以外の科目	キリスト教学(1)	1	2		2	必修科目 8 単位を 含め12単位選択必修
		キリスト教学(2)	1	2		2	
		いのち・福祉とキリスト教	1~4		2	2	
		人間の尊厳とキリスト教	1~4		2	2	
		いのち・福祉と女性	1~4		2	2	
		男女共同参画社会	1~4		2	2	
		倫理学	1~4		2	2	
		心理学	1~4		2	2	
		日本国憲法	1~4		2	2	
		スポーツと福祉	1~4		2	2	
		発達と学習	1~4	2		2	
		カウンセリング入門	1~4		2	2	
		キャリア開発 A	1	2		2	
		情報リテラシー	1~4		2	2	
	外国語	英語コミュニケーションA(1)	1	1		1	
		英語コミュニケーションA(2)	1	1		1	
		英語コミュニケーションB(1)	1	1		1	
		英語コミュニケーションB(2)	1	1		1	
	体育	健康科学	1~4	2		2	必修科目 2 単位を 含め 4 単位選択必修
		スポーツ・アンド・エクササイズA	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズB	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズC	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズD	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズE	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズF	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズG	1・2		1	1	
	合 計			14	27	41	

(2) 必修科目群

系 列	科目区分	本学開設授業科目及び単位並びにその修得方法				備 考
		授 業 科 目	開講 基準 年次	資格上の修得 区分と単位数		
				必修	選択	計
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	保育原理	1	2		2
	教育原理	教育原論	3	2		2
	児童家庭福祉	児童家庭福祉	2	2		2
	社会福祉	社会福祉	1	2		2
	相談援助	相談援助	3	2		2
	社会的養護	社会的養護	2	2		2
	保育者論	保育者論	3	2		2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	発達心理学	3	2		2
	保育の心理学Ⅱ	乳幼児期発達心理学（演習）	1	1		1
	子どもの保健Ⅰ	子どもの保健A	2	2		2
		子どもの保健B	2	2		2
	子どもの保健Ⅱ	子どもの保健C（演習）	2	1		1
	子どもの食と栄養	子どもの食と栄養	2	2		2
	家庭支援論	家族支援論	3	2		2
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	保育課程論	2	2		2
	保育内容総論	保育内容総論	3	2		2
	保育内容演習	保育内容の研究・人間関係	2	2		2
		保育内容の研究・健康	2	2		2
		保育内容の研究・環境A	1・2	1		1
		保育内容の研究・言葉	2	2		2
		保育内容の研究・表現（音楽A）	2	1		1
	保育内容の研究・表現（美術A）	2	1		1	
	乳児保育	乳児保育	1	2		2
	障害児保育	障害児保育	2	2		2
社会的養護内容	社会的養護内容	2	1		1	
保育相談支援	保育相談支援	3	1		1	
保育の表現技術	保育の表現技術	音楽A	1	1		1
		音楽B	1	1		1
		図画工作A	1	1		1
		図画工作B	1	1		1
		子ども体育B（演習）	3	1		1
		児童文学（演習）	3	1		1
保育実習	保育実習Ⅰ	保育実習A	2	2		2
		保育実習B	3	2		2
	保育実習指導Ⅰ	保育実習指導A	2	1		1
		保育実習指導B	3	1		1
総合演習	保育実践演習	2	2		2	
合 計				59	0	59

(3) 選択必修科目群

系 列	科目区分	本学開設授業科目及び単位並びにその修得方法				備 考		
		授 業 科 目	開講 基準 年次	資格上の修得 区分と単位数				
				必修	選択		計	
保育の本質・目的に関する 科目		幼児教育学	1		2	2	必修科目 3 単位を含め 9 単位選択必修	
		教育人間学	2		2	2		
保育の対象の理解に関する 科目		特別支援教育論	4		2	2		
		臨床心理学概論	3		2	2		
		子ども理解と発達相談	3		2	2		
		乳幼児期発達心理学	2		2	2		
		児童・青年期発達心理学	3		2	2		
		人格心理学	3		2	2		
		障害児援助論	3		2	2		
		児童・青年精神医学	4		2	2		
		障害児発達論	3		2	2		
	家族社会学	4		2	2			
保育の内容・方法に関する 科目		保育内容の研究・環境 B	1・2		1	1		
		保育内容の研究・表現(音楽 B)	2		1	1		
		保育内容の研究・表現(美術 B)	2		1	1		
		子ども文化論 A	2		2	2		
		子ども文化論 B (演習)	3		1	1		
保育の表現技術		音楽 C	2		1	1		
		音楽 D	3		1	1		
		子ども・障害児の音楽療法	4		2	2		
		遊戯療法	3		2	2		
		発達美術論 (演習)	3		1	1		
		子ども体育 A	1		2	2		
保育実習	保育実習 II	保育実習 C	2	2		2		保育所 施設
	保育実習 III	保育実習 D	4		2	2		
	保育実習指導 II	保育実習指導 C	2	1		1		
	保育実習指導 III	保育実習指導 D	4		1	1		
		合 計		3	42	45		

2 精神保健福祉士国家試験受験資格について

「精神保健福祉士」とは、精神保健福祉士法に定められた国家資格です。主に精神科病院その他の医療施設や社会復帰施設において、精神障害者の社会復帰に関する相談および援助に従事する専門職をいいます。

「精神保健福祉士」の国家試験受験資格は、厚生労働省の定める「指定科目」（20科目以上）履修により得ることができます。「指定科目」と「本学開講科目」との対比は以下の通りです。表に従って合計20科目以上を履修してください。指定科目履修後、国家試験（毎年1月末実施）に合格して登録を行うと、「精神保健福祉士」資格を取得することができます。

本学では指定科目のうち、必修の「精神保健福祉援助実習」の履修定員を1学年30人に定めています。この実習は医療施設や障害者施設などで合計210時間行われ、相応の事前学習および明確な目的意識が必要です。そのため、精神保健福祉士受験希望者に関しては、多元心理学科およびコミュニティ福祉学科で選抜試験を実施します。選抜試験は多元心理学科では1年次後半に20人定員、コミュニティ福祉学科では1年次後半から2年次前半の間に10人定員で行います。

	指定科目	本学開講科目	開講学年		単位数		備考
			多元心理	コミュニティ福祉	必修	選択	
社会福祉士との共通科目	(1) 人体の構造と機能および疾病	医学概論	2	2・3		2	※1
	(2) 心理学理論と心理的支援	心理学概論	1	1		2	
		心理学概説	2	2		2	
	(3) 社会理論と社会システム	社会学概論	1	1		2	
	(4) 現代社会と福祉	社会福祉概論(1)	1	1	2		
		社会福祉概論(2)	2	1	2		
	(5) 福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	4	4	2		
	(6) 地域福祉の理論と方法	地域福祉論(1)	3	2	2		
		地域福祉論(2)	3	2	2		
	(7) 社会保障	社会保障論	3	2	4		
	(8) 低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	3	2	2		
(9) 保健医療サービス	医療福祉論	3	3	2			
(10) 権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見	3	3	2			
(11) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2	2	2			
専門教育科目	(12) 精神疾患とその治療	精神疾患とその治療(1)	1	1	2		
		精神疾患とその治療(2)	1	1	2		
	(13) 精神保健の課題と支援	精神保健の課題と支援(1)	2	2	2		
		精神保健の課題と支援(2)	2	2	2		
	(14) 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	相談援助の基盤と専門職	2	1	4		
	(15) 精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神科ソーシャルワーク論	2	2	2		
	(16) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉の理論と相談援助の展開A	2	2	2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開B	2	2	2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開C	3	3	2		
		精神保健福祉の理論と相談援助の展開D	3	3	2		
	(17) 精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス(1)	3	3	2		
		精神保健福祉に関する制度とサービス(2)	3	3	2		
	(18) 精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	3	3	2		
	(19) 精神保健福祉援助演習（基礎）	精神保健福祉援助演習(1)	2	2	1		
(20) 精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助演習(2)	3	3	1			
	精神保健福祉援助演習(3)	3	3	1			
	精神保健福祉援助実習事前指導	3	3	1			
(21) 精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習事後指導(1)	4	4	1			
	精神保健福祉援助実習事後指導(2)	4	4	1			
(22) 精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	4	4	3			

※1：4科目のうち、1科目修得のこと。ただし、国家試験では3分野全体から出題されます。

※ 課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、7,500円（2年次）、25,000円（3年次）、35,000円（4年次）の計67,500円です。徴収方法は学納金の口座からの引落としとなります。引落としに際しては事前にご案内します。

3 博物館学芸員資格について

博物館、美術館、民俗資料館などには専門職員として学芸員を置くことが義務づけられています（博物館法第4条第3項）。学芸員は博物館において資料の収集、保管、展示や調査・研究などの専門的な仕事に従事します。

学芸員の資格を取得するためには、「学士の学位を有し、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得する」（博物館法第5条第1項）が必要です。資格取得については次の表にしたがって科目を履修してください。

博物館実習(2)は4年次の、主として夏休みの期間中に1週間行われます。実習先は原則的には大学の方で依頼・確定しますが、実習可能な館は少なく、また実習自体も大変難しく厳しいものです。したがって、博物館実習に参加する前に各自においても、相応の学習が望まれます。なんとなく資格をと思っている学生では実習できません。また、実習中に学生側の責任で問題が生じた場合には実習を中止させることがあります。

いずれにしても事前に十分な準備が欠かせません。

どうして学芸員になりたいのか、どういう学芸員になりたいのか、ということについて明確な目的意識をもち、しっかりした心構えで望むことが必要です。

	科目 (法令上の科目)	単位	相当科目 (大学における開講科目)	開講基準年次及び単位数				備考	
				1年	2年	3年	4年		
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論		2				
	博物館概論	2	博物館概論	2					
	博物館経営論	2	博物館経営論			2			
	博物館資料論	2	博物館資料論	2					
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論		2				
	博物館展示論	2	博物館展示論		2				
	博物館教育論	2	博物館教育論			2			
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論			2			
	博物館実習	3	博物館実習(1) 博物館実習(2)			2		1	
選択必修科目	美術史	2系列 8単位以上	西洋美術史A	2					
			西洋美術史B	2					
			東洋美術史			2			
			現代美術A		2				
			現代美術B		2				
	民俗学		文化人類学		2				
			民族音楽論				2		

※課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は3年次（後期）4,000円、4年次（前期）11,000円です。徴収方法は学納金の口座からの引落としとなります。引落としに際しては事前にご案内します。

4 音楽療法士受験資格について

日本音楽療法学会（旧全日本音楽療法連盟）では、1997年より音楽療法士を認定しています。

日本音楽療法学会では音楽療法士養成コースをもつ大学等に対して、毎年、教育カリキュラムの審査を行い、受験資格校として認定しています。受験資格校として認定された大学等において、学会に指定された単位を修得した学生は、音楽療法士（補）の試験（筆記試験）受験資格が得られます。この筆記試験に合格し、その後の面接試験等に合格すると正式に音楽療法士として認定されます。

音楽療法士（補）の試験（筆記試験）受験資格を得るために必要な日本音楽療法学会指定科目と本学の開講科目との対比は以下の表の通りです。表に従って必要な単位を履修してください。

なお、施設実習(1)では、福祉施設や医療施設において、原則4週間、対象者の日常生活に触れることにより、疾病や障害の理解を深め、対象者への関わり方を習得します。施設実習(2)では、音楽療法が実施されている施設において、音楽療法のセッションに参加し、音楽療法の実際を体得します。実習期間は半期を通じて実習施設から指定された曜日に行います。

日本音楽療法学会指定科目			本学開設科目			備考
1) 音楽分野 (34単位、その中で必修24単位)	必修	選択	1) 音楽分野 (34単位、その中で必修24単位)	必修	選択	
理論			理論			—印は、 本学では開設 しない科目
音楽理論／通論	4		音楽理論(1)	2		
			音楽理論(2)	2		◎音楽分野で 必修科目とし て履修した科 目以外の科目 から10単位選 択
美学（音楽）		2	芸術学概論		2	
和声学	2		和声学(1)	2		
編曲法		2	編曲法		2	
鍵盤和声（コード伴奏法）		2	和声学(2)		2	
対位法		2	対位法		2	
音楽構成論		2	—			
楽式論		2	—			
楽曲分析		2	楽曲分析		2	
演奏解釈		2	—			
芸術社会学		2	—			
音楽心理学	2		音楽心理学	2		
音楽社会学		2	—			
音楽教育学		2	音楽科教育の研究A		4	
コンピューター音楽		2	—			
西洋音楽史		2	西洋音楽史A		2	
日本の音楽	2		日本音楽論	2		
西洋音楽史各論		2	西洋音楽史B		2	
演奏様式論		2	—			
民族音楽学		2	民族音楽論		2	
芸能論		2	—			
実技〔副科を含む〕			実技			
ソルフェージュ	2		ソルフェージュAまたはソルフェージュB	2		
ピアノ	2		器楽奏法A	1		
			器楽奏法B	1		
			器楽奏法C		1	
			器楽奏法D		1	
			器楽奏法E		1	
			器楽奏法F		1	
			器楽奏法G		1	
			器楽奏法H		1	
声楽	2		声楽A	1		
			声楽B	1		
			声楽C		1	
			声楽D		1	
			声楽E		1	
			声楽F		1	
			声楽G		1	
			声楽H		1	
器楽（管、弦、打楽器）	2		管楽器	1		
			和楽器	1		

日本音楽療法学会指定科目			本学開設科目		
合唱	2		合唱	2	
合奏	2		アンサンブル演習(1)	1	
			アンサンブル演習(2)	1	
指揮法	2		指揮法	2	
ギター		2	—————		
リトミック		2	—————		
2) 音楽療法分野 (30単位)	必修	選択	2) 音楽療法分野 (32単位)	必修	選択
概論			概論		
音楽療法概論	2		音楽療法概論	2	
音楽療法1 (基礎)			音楽療法1 (基礎)		
音楽療法の理論と技法	4		音楽療法の理論と技法A	2	
			音楽療法の理論と技法B	2	
音楽療法2 (臨床)			音楽療法2 (臨床)		
音楽療法各論(I)	2		子ども・障害児の音楽療法	2	
音楽療法各論(II)	2		成人・高齢者の音楽療法	2	
音楽療法各論(III)	2		ホスピス論	2	
音楽療法3 (技能)			音楽療法3 (技能)		
技能(I)	2		歌唱伴奏	2	
技能(II)	2		即興演奏	2	
技能(III)	2		作曲技法	2	
演習・実習			演習・実習		
演習	2		演習・グループ体験(1)(学内実習)	1	
			演習・グループ体験(2)(学内実習)	1	
演習	6		施設実習(1)(本実習)	3	
			施設実習(2)(本実習)	3	
卒業研究			卒業研究		
卒業論文	4		卒業論文	6	
3) 医学・心理学分野 (10単位)	必修	選択	3) 医学・心理学分野 (10単位)	必修	選択
医学概論	2		医療総論	2	
臨床医学各論(I)	2		心身医学	2	} 1科目2単位 選択必修
			精神疾患とその治療(1)	2	
			精神疾患とその治療(2)	2	
臨床医学各論(II)	2		小児医学	2	
臨床心理学(I)	2		心理テスト	2	
臨床心理学(II)	2		心理療法論	2	} 1科目2単位 選択必修
			カウンセリング論	2	
4) 福祉・教育分野 (8単位)	必修	選択	4) 福祉・教育分野 (8単位)	必修	選択
社会福祉概論	2		児童家庭福祉	2	} 1科目2単位 選択必修
			社会福祉	2	
発達心理学	2		発達心理学	2	} 1科目2単位 選択必修
			生涯発達心理学概論	2	
障害児教育	2		障害児発達論	2	} 1科目2単位 選択必修
			心身障害論	2	
介護概論	2		音楽療法総合実習(介護体験等を含む)	2	
5) 語学 (8単位)	必修	選択	5) 語学 (8単位)	必修	選択
音楽療法の原著講読	2		音楽療法総論	2	
			英語コミュニケーションA(1)(2)	2	
			英語コミュニケーションB(1)(2)	2	
			英語コミュニケーションC(1)(2)	2	
			英語コミュニケーションD(1)(2)	2	
			英語コミュニケーションE(1)(2)	2	
			英語コミュニケーションF(1)(2)	2	
6) その他	必修	選択	6) その他	必修	選択
			臨床ケア学	2	
			基礎人間学	2	
			治療構造論	2	
			芸術療法概論	2	
			絵画療法概論	2	
			人間科学基礎演習	2	
			芸術・芸術療法学基礎演習	2	
			芸術・芸術療法学演習(1)	2	
			芸術・芸術療法学演習(2)	2	

※ 課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に実習費等の課程履修費が必要です。課程履修費は10,500円(2年次)、45,000円(3年次)、45,000円(4年次)です。徴収方法は学納金の口座からの引落としとなります。引落としに際しては事前にご案内します。

5 社会福祉士国家試験受験資格について

〔1〕社会福祉士とは？

コミュニティ福祉学科の学生は、所定の単位を修得することによって、「社会福祉士」の国家試験を受験することができます。

社会福祉士というのは、「社会福祉士及び介護福祉士法」（1988年4月施行）に定められた資格で、「専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上的の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者、その他関係者との連絡及び調整その他の援助を行なうこと」を仕事とする国家資格です。

〔2〕社会福祉士国家試験受験資格取得科目について

社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする学生は、以下の表に定められた授業の科目単位を、合計63単位以上修得しなければなりません。

下の表の授業科目の単位は卒業要件単位として算入されます。

■ 社会福祉士指定科目と本学開講科目の関連 ■

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目	左記に対応する本学開設授業科目、開講学年及び単位数		
人体の構造と機能及び疾病	* 医学概論	◎2・3年	2
心理学理論と心理的支援	* 心理学概論	◎1年	2
	* 心理学概説	◎2年	2
社会理論と社会システム	* 社会学概論	◎1年	2
現代社会と福祉	○ 社会福祉概論(1)	◎1年	2
	○ 社会福祉概論(2)	◎1年	2
社会調査の基礎	○ 社会調査論	◎1年	2
相談援助の基盤と専門職	○ 相談援助の基盤と専門職	◎1年	4
相談援助の理論と方法	○ 社会福祉援助技術論(1)	◎1年	2
	○ 社会福祉援助技術論(2)	◎2年	2
	○ 社会福祉援助技術論(3)	◎2年	2
	○ 社会福祉援助技術論(4)	◎3年	2
地域福祉の理論と方法	○ 地域福祉論(1)	◎2年	2
	○ 地域福祉論(2)	◎2年	2
福祉行財政と福祉計画	○ 福祉行財政と福祉計画	◎4年	2
福祉サービスの組織と経営	○ 福祉サービスの組織と経営	◎4年	2
社会保障	○ 社会保障論	◎2年	4
高齢者に対する支援と介護保険制度	○ 老人福祉論	◎1年	2
	○ 介護福祉論	◎2年	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○ 障害者福祉論	◎2年	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	○ 児童福祉論	◎2年	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	○ 公的扶助論	◎2年	2
保健医療サービス	○ 医療福祉論	◎3年	2
就労支援サービス	** 就労支援サービス	◎2年	2
権利擁護と成年後見制度	** 権利擁護と成年後見	◎3年	2
更生保護制度	** 司法福祉	◎3年	2
相談援助演習	○ 相談援助演習(1)	2年	1
	○ 相談援助演習(2)	2年	1
	○ 相談援助演習(3)	3年	1
	○ 相談援助演習(4)	3年	1
	○ 相談援助演習(5)	4年	1
相談援助実習指導	○ 相談援助実習指導(1)	2年	2
	○ 相談援助実習指導(2)	2年	2
	○ 相談援助実習指導(3)	3年	2
	○ 相談援助実習指導(4)	3年	2
相談援助実習	○ 相談援助実習	3年	4

備考：○は、受験資格取得のため、必修科目です。

◎は、社会福祉士国家試験の出題科目です。

* 4科目のうち、1科目修得のこと。ただし、国家試験では3分野全体から出題されます。

** 3科目のうち、1科目修得のこと。ただし、国家試験では3分野全体から出題されます。

〔3〕 相談援助実習指導の履修について

- (1) 「相談援助実習指導(1)」を履修するにあたっては、1年次に実施するガイダンスに出席し、希望票を提出した学生が履修することができます。
- (2) 「相談援助実習指導(2)」を履修するにあたっては、「社会福祉概論(1)」「社会福祉概論(2)」「相談援助の基盤と専門職」「社会福祉援助技術論(1)」「社会福祉援助技術論(2)」のうち、4科目以上の単位を修得し、「相談援助実習指導(1)」を修得した学生が履修することができます。
- (3) 「相談援助実習指導(3)(4)」を履修するにあたっては、上記(1)、(2)の要件を満たしている学生が履修する事ができます。

〔4〕 相談援助実習について

- (1) 社会福祉士国家試験受験資格取得科目のひとつである「相談援助実習」ならびに「相談援助実習指導(3)(4)」（以下「実習」と略）を履修するにあたっては、2年次終了までに修得しなければならない科目が定められています。加えて、2年次開講科目の「相談援助実習指導(1)(2)」で所定のレポートを提出し、コミュニティ福祉学科が許可した学生が履修することができます。詳細については、別途配布する『実習の手引き』を確認して下さい。
- (2) 実習は、合計180時間以上、施設・機関での配属実習として行います。
- (3) 実習を履修する学生は、4月にコミュニティ福祉学科実習研究室に掲示されるクラス分けに基づいて履修登録をして下さい。

〔5〕 相談窓口について

社会福祉士国家試験受験資格取得にかかわる業務は、すべてコミュニティ福祉学科におかれる実習研究室が行います。質問や相談などがあれば、実習研究室において下さい。

〔6〕 課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、10,000円（2年次）、50,000円（3年次）計60,000円です。徴収方法は学納金の口座からの引落としとなります。引落としに際しては事前にご案内します。

6 障害者スポーツ指導員（初級）について

〔1〕障害者スポーツ指導員（初級）とは

障害者スポーツ指導員とは、障害を抱えた人が体を鍛えたり、スポーツを楽しんだりするのをサポートするため、障害に応じた適切な指導をする専門家のことです。主催団体は、財団法人日本障害者スポーツ協会であり、初級、中級、上級が設けられています。その中でも初級は、18歳以上であれば、誰でも取得を目指すことができ、本学はその認定校として認められています。

〔2〕障害者スポーツ指導員（初級）の資格取得科目について

障害者スポーツ指導員（初級）の資格を取得しようとする学生は、以下の表に定められた授業の科目単位を、合計3単位修得しなければなりません。

下の表の授業科目の単位は卒業要件単位として算入されます。

基準カリキュラム	開講科目	開講年次	単位
講義科目	スポーツと福祉	1年	2
実技・演習科目	福祉スポーツ実技	2年	1

〔3〕課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は2年次に14,000円を徴収します。この課程履修費の中には、単位取得後に資格を申請する際の協会への認定手続き料5,000円（認定料2,000円、申請料1,500円、証明書発行料1,500円）と年会費3,500円を含みます。徴収方法は学納金の口座から引落としとなります。引落としに際しては事前にご案内します。徴収した課程履修費は、いかなる理由があろうとも返還されないのをご了承ください。